

第3次山鹿市総合計画

基本構想編（素案）

【留意事項】

- 1 本案は、計画に記載する内容（項目、文章）を検討するためのものです。
- 2 内容以外のレイアウト、色、飾り（線・網掛、マーク、写真、イラスト）は全て仮です。
- 3 計画に記載する内容が決定後に、計画書（冊子）として編集デザインを行います。
- 4 巻頭ページ（市長メッセージ）は、編集デザイン段階で作成します。

空白ページ

市長メッセージ または インタビュー
巻頭ページは編集デザイン
段階で作成します。

目次

1 はじめに	P5-P8
1-1 背景	P5
1-2 位置づけ	P6
1-3 構成	P6
1-4 期間	P6
1-5 本市を取り巻く社会の変化	P7-P8
2 本市の現状	P9-P26
2-1 本市の現状（強みと課題）	P9-P24
2-2 まちづくりの課題	P25-P26
3 基本構想	P27-P30
3-1 未来ビジョン	P27-P28
3-2 まちづくりのコンセプト	P29-P30
4 総合計画を支える個別計画	P31-P32
5 構想の推進に向けて	P33

1 はじめに

1-1 背景

第3次山鹿市総合計画(以下「本計画」といいます。)は、まちの将来像を定め、その実現に向けたまちづくりの基本指針や政策を明らかにする計画です。

私たちの暮らす山鹿市(以下「本市」といいます。)にはたくさんの魅力があります。

本市では、これらの魅力を活かしながら、長期的な展望を持った総合計画を2次にわたり策定し、まちづくりを進めてきました。

2025(令和7)年度末をもって現行の総合計画の計画期間が満了することから、2026(令和8)年度を初年度とする本計画を策定します。

本市をイメージさせるイラスト、写真などを配置

1-2 位置づけ

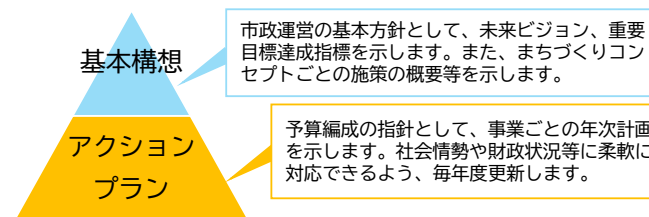
本計画は、本市が目指す将来の姿と、そのために必要な取組をまとめた、まちづくりの羅針盤となる最上位計画です。

そのため、市のすべての個別計画は本計画を土台とし、整合性をもって進められます。また、「まち・ひと・しごと創生法」¹(平成26年法律第136号)第10条第1項に定める「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」を包含することで、国や県の政策とも連携しながら、効率的にまちづくりを進めます。

このように、市民、事業者、行政が同じ方向を向き、力を合わせて本市の未来をつくるための行動指針となります。

1-3 構成

本計画は、「基本構想」「アクションプラン」²で構成します。



1-4 期間

基本構想を8年間、その実現に向けたアクションプランを前期4年・後期4年の2期に分けて進めます。さらに、社会情勢の変化に柔軟に対応するため、毎年度、3年先までの計画を見直すローリング方式³を取り入れます。

年度	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	R13 2031	R14 2032	R15 2033
基本構想	8年間							
アクションプラン	前期4年間				後期4年間			
	毎年度3年先までローリング							
					毎年度3年先までローリング			

¹ 2014年に制定された、地方を活性化させるための法律

² 目標達成のために必要な具体的行動を定めた計画のこと

³ 現実と計画のズレを埋めるために、一定期間ごとに施策・事業を見直し修正していく手法

1-5 社会の変化（社会的潮流）

これからのまちづくりを考えるにあたり、本市を取り巻く社会の変化などについて整理します。

超高齢化社会の進展

・2025(令和7)年には、団塊の世代⁴が75歳以上の後期高齢者に達し、社会保障費の増大、医療・介護体制の維持困難、人材不足、事業承継問題などが一層深刻化すると予測されています。

・生産年齢人口⁵の減少と高齢化の加速により、労働力不足や社会保障費の増大が喫緊の課題となっています。

写真&イラスト

人口減少・少子化

・未婚化、晩婚化の進行に伴い、合計特殊出生率⁶が低下。日本の人口は2053(令和35)年に1億人を下回ると推計されています。

・子育て支援や教育環境の整備などが一層求められています。

写真&イラスト

DX⁷（デジタルトランスフォーメーション）の加速

・AI⁸（エーアイ）やIoT⁹（アイオーティー）、ロボットの活用が進み社会全体が高度情報化へと移行しています。一方でIT人材不足により、DX推進が遅れることによる経済損失が懸念されています。

写真&イラスト

⁴ 第1次ベビーブームのあった時期である1947～1949年に生まれた世代のこと

⁵ 15歳から64歳までの、社会の生産活動を担う中心的な年齢層の人口

⁶ 15歳から49歳までの一人の女性が生涯で産む子どもの平均数を示す指標

⁷ デジタル技術を社会に浸透させて生活をより良く変えること

⁸ 人間の「考える力」や「学ぶ力」をコンピューターで再現しようとする技術

⁹ 様々な「モノ」がインターネットを通じて情報交換を行う仕組み

ライフスタイルや価値観の多様化

・核家族化¹⁰や就労形態の変化により、ライフスタイルや価値観が多様化し、心の豊かさや個性を重視する傾向が強まっています。

・「人生100年時代」を迎え、生涯学習¹¹や多様な働き方へのニーズが高まっています。

写真&イラスト

地方創生・都市集中と地方の課題

・人口の東京一極集中が続いており、地方では人口減少と高齢化がさらに進み、地域コミュニティの維持やインフラの老朽化などが課題となっています。

写真&イラスト

労働環境の変化

・働き方改革やリモートワーク、副業といった多様な働き方の推進が求められるなか、人手不足や長時間労働といった課題にも対応するため、だれもが無理なく働けるよう、柔軟な働き方の推進や休暇・労働条件の改善、職場の安全・健康の確保、研修やキャリア支援、さらに性別や年齢にとらわれず働きやすい環境づくりに取り組むことが必要とされています。

写真&イラスト

安全安心へのニーズの高まり

・近年、自然災害の激甚化や社会環境の変化により、市民の安全・安心への関心が高まっています。

・防災・減災インフラの整備や避難訓練、防犯・交通安全対策の強化、医療・福祉サービスの充実と迅速な情報提供、地域活動への市民参画促進、テクノロジーの活用による防災・安全対策の強化など、多角的な取組が必要とされています。

写真&イラスト

¹⁰ 夫婦とその未婚の子どもで構成される家族、または夫婦のみ、ひとり親家庭が増加すること

¹¹ 私たちが生涯にわたって行う学習活動。学校教育も社会教育も生涯学習の一部

2 本市の現状

2-1 本市の現状（強みと課題）

本市の強み

市民の意見などから、本市の魅力や強みについて整理します。

豊かな自然と歴史・文化

美人湯として知られる歴史ある温泉

平安時代から続く温泉地は多くの観光客を惹きつけます

山鹿温泉 写真

平山温泉 写真

受け継がれる伝統文化

国の伝統的工芸品にも指定される山鹿灯籠などの伝統工芸が継承され、地域の誇りになっています。

山鹿灯籠 写真

山鹿灯籠まつり写真

来民うちわ 写真

四季折々の多彩でユニークな自然

奇岩や溪谷、田園風景など、四季折々の変化を楽しめる自然が点在しています。

不動岩 写真

岳間溪谷 写真

番所の棚田 写真

古代から現代までつながる史跡の数々

全国の約10%を占める装飾古墳や、江戸時代の風情を残す豊前街道は、八千代座などの史跡が点在しており、全国から観光客が訪れています。

チブサン古墳 写真

八千代座 写真

山鹿灯籠民芸館 写真

鞠智城 写真

豊前街道 写真

県立装飾古墳館 写真

大地が育む多彩な「食」

豊かな大地が育む農産物と加工品が豊富

菊池川が育んだ肥沃な大地では、米や野菜、果物など質のよい農産物が豊富に生産されています。また、西日本一の生産量を誇る山鹿和栗は、全国の料理人にも人気の「ブランド栗」となっています。これらの農産物を使った加工品開発も盛んに行われています。近年では、伝統的に作られてきた日本酒に加え、ワイン、ウイスキー、クラフトビールの4種のお酒が製造され、本市は全国的にも稀有な地域です。

和栗 写真

たけのこ 写真

日本酒 写真

ワイン 写真

和栗加工品写真

スイカ、メロンなどの農産物写真

ウイスキー 写真

クラフトビール 写真

便利で暮らしやすい環境

充実した子育て支援で、暮らしやすい環境

充実した子育てサービスやスーパー、直売所など、生活の利便性が高いのが魅力という市民、移住者の声が多く聞かれています。

特に子育て支援の分野では、待機児童ゼロ、高校生までの医療費助成、ランドセル無償支給のほか、小中学校の児童生徒に、Wi-Fiに頼らず使用できるLTE端末を配布するなど、子どもたちが積極的に学び、自らの夢をかなえるための学びの機会創出なども行っています。

子どもを遊ばせる場所も多く、子育て環境の良さから、移住してくる人も増加しています。

新規就農支援も充実しており、就農のために移住する人も増えています。

写真&イラスト

あたたかな人との触れ合い

あたたかいつながりを感じるコミュニティ

街全体がゆったりとした雰囲気にもまれており、住民同士のあたたかなつながりが魅力となっています。人柄の良さから山鹿を選んだという移住者も多く、心地よいコミュニティが形成されていると言えます。

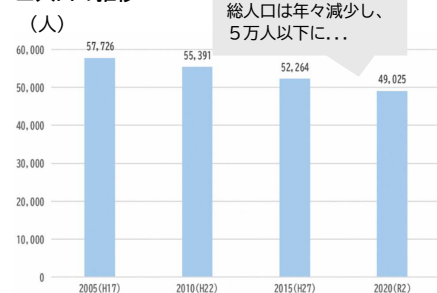
写真&イラスト

本市の課題

本市の課題について、人口や産業、財政状況等に関する経年的な統計データから整理します。

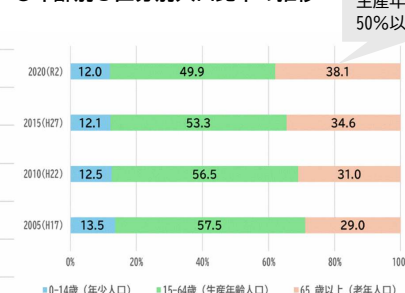
▶人口の現状

■人口の推移



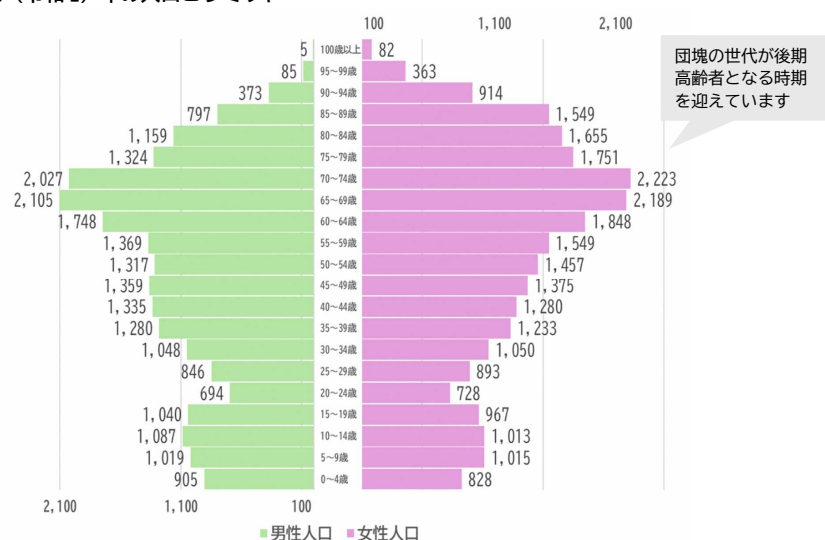
(出典：総務省「国勢調査」)

●年齢別3区分別人口比率の推移



(出典：総務省「国勢調査」) 年齢不詳を除く。

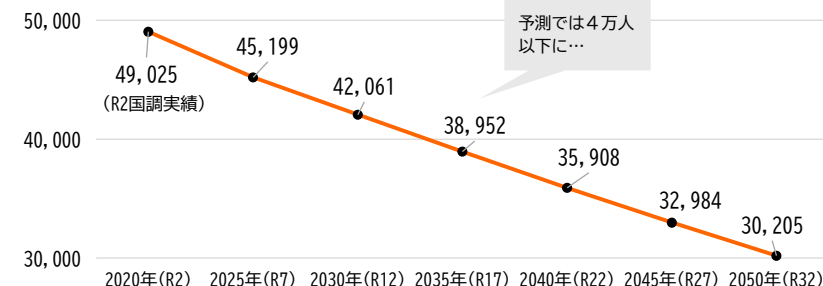
■2020 (令和2) 年の人口ピラミッド



(出典：総務省「国勢調査」) 年齢不詳を除く。

■推計人口

(人) 60,000



(出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」2023(R5)年推計)

<人口の現状のまとめ>

- 総人口は大幅に減少し、5万人を下回り、2035 (令和17) 年には、4万人を下回ることが予想されます。
- 生産年齢人口が50%以下まで下降し、老年人口は、38.1%にまで上昇しています。
- 団塊の世代が後期高齢者となる時期を迎えています。
- 51-54歳の団塊ジュニア世代が、25年後には後期高齢者となります。
- 15-19歳と比べ、20-29歳が少なくなっており、進学・就職等による若年層の流出の影響がうかがえます。
- 一方で30代以上では増加しており、UIターンなどの影響もあると考えられます。

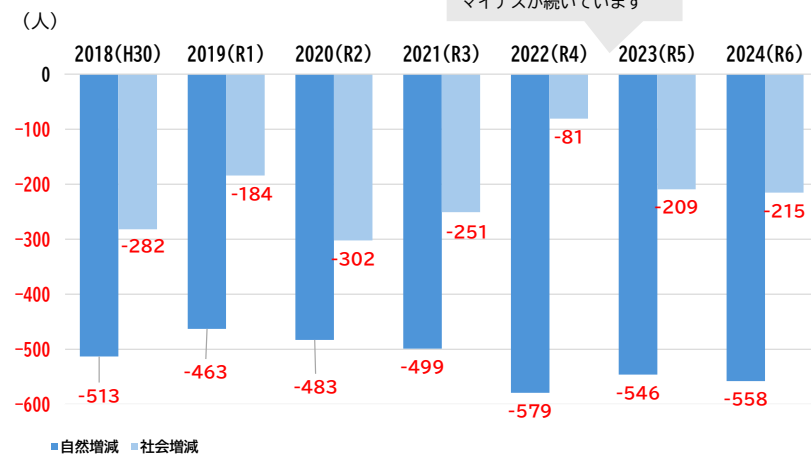


◆人口減少幅をできるかぎり緩やかにし、人口規模や人口構造に応じたまちづくりが必要。

◆子ども・若者の割合を保っていくためのまちづくりが必要。

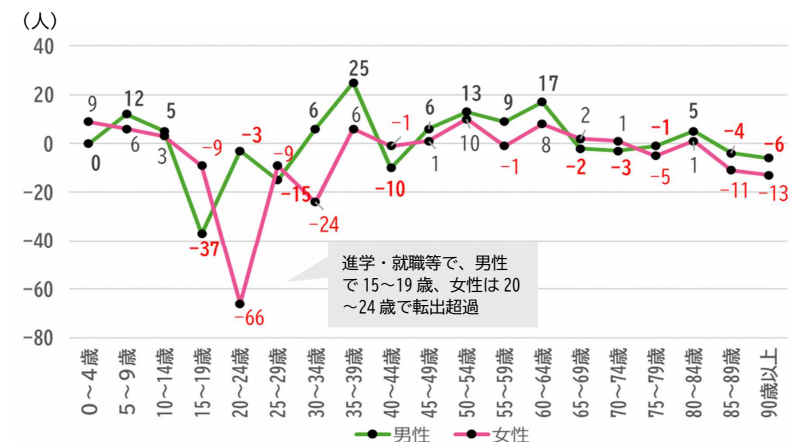
▶人口動態の現状

■自然増減¹²・社会増減¹³の推移



(出典：総務省「住民基本台帳」)

■2024年(令和6)年度の転入超過・転出超過の年齢構成

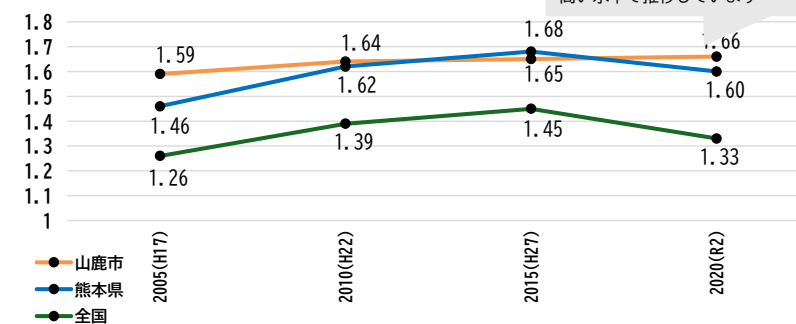


(出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」)

¹² 出生と死亡によって起こる人口の増減

¹³ 転入と転出によって起こる人口の増減

■合計特殊出生率の全国、熊本県と本市の比較



(出典：総務省「人口動態統計特殊報告」)

<人口動態の現状のまとめ>

- 自然増減、社会増減では、いずれも減少が続いています。
- 転出超過は20-24歳で最も多く就職等による流出が大きいことがうかがえます。
- 転入超過は、30-39歳で多く、移住(UJターン)による影響と考えられます。
- 合計特殊出生率は全国及び熊本県より高い水準で推移しているが、希望出生率¹⁴1.80より下回っています。



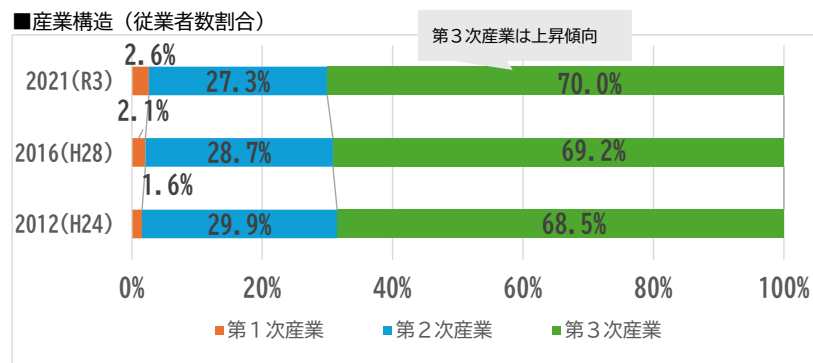
◆若い世代が住み続けたい、帰ってきたいと思えるまちづくりが必要。

◆子どもを産み、育てるための支援や環境づくりが必要。

写真&イラスト

¹⁴ 若い世代における結婚、妊娠・出産、子育ての希望がかなう場合に想定される出生率

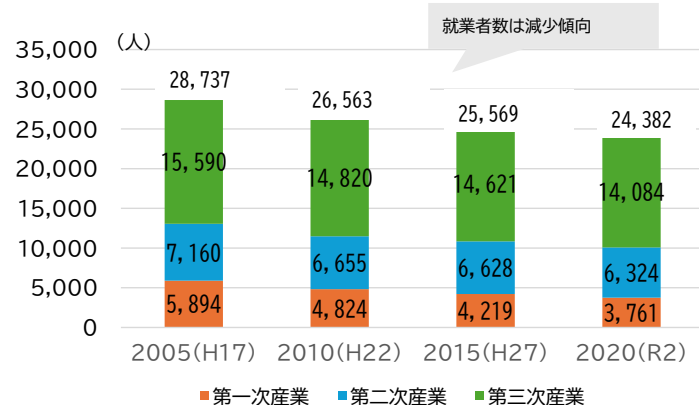
▶産業の現状



（出典：総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」）

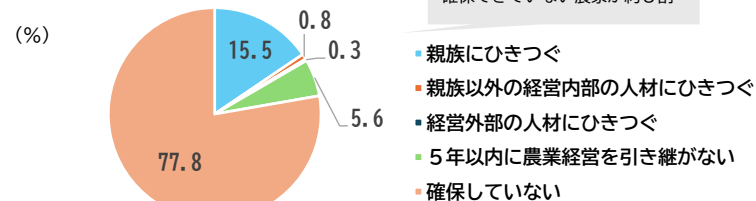
第1次産業（農業・林業・漁業等） 第2次産業（製造業・建設業・鉱業等）
第3次産業（商業・金融業・不動産業・運輸通信業等）

■大分類別就業者数の推移



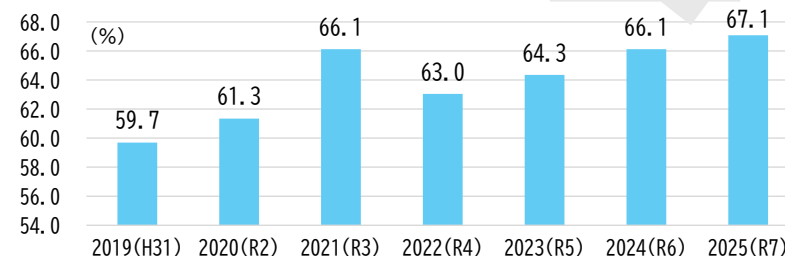
（出典：「国勢調査」）

■農業の担い手の状況



（出典：農林水産省「農林業センサス 2020（R2）」）

■熊本県新規高校卒の地元（県内）就職率の推移



（出典：文部科学省「新規高等学校卒業者の就職状況」）

■都道府県別新規高校卒の地元への就業者の割合ランキング

ベスト10			ワースト10		
順位	都道府県名	割合	順位	都道府県名	割合
1	愛知	95.0	38	沖縄	71.8
2	富山	94.8	39	長崎	71.7
3	北海道	93.7	40	高知	68.6
4	大阪	91.8	41	熊本	67.1
5	滋賀	91.5	42	佐賀	66.3
6	石川	90.5	43	埼玉	65.6
7	福井	89.9	44	宮崎	62.3
8	静岡	89.8	45	奈良	61.7
9	長野	89.5	46	青森	60.2
10	山梨	87.2	47	鹿児島	57.8

（出典：文部科学省「令和7年3月新規高等学校卒業者の就職状況」）

全国ワースト7位

<産業の現状のまとめ>

- 産業別の就業者数割合では、第1次、第3次産業の割合が上昇傾向であり、第2次産業の割合は低下しています。
- 第1次産業の就業者数は4千人以下まで減少しています。

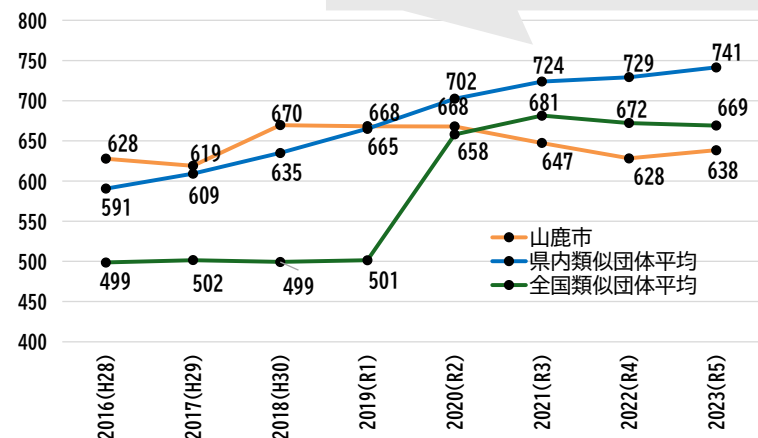
写真&イラスト

◆人口減少に伴い就業者人口は減少。特に、農業人口の減少が大きく、将来の担い手がない農家が大半を占める。今後の担い手の確保、ブランド化などの付加価値創出、生産性の向上などを図ることが必要。

◆熊本県内の新規高校卒業者の地元（県内）就職率は67.1%と低く、都道府県別でワースト7位という現状を踏まえ、若者の地元定着を図るため、多角的な支援策が必要。

▶市の財政状況

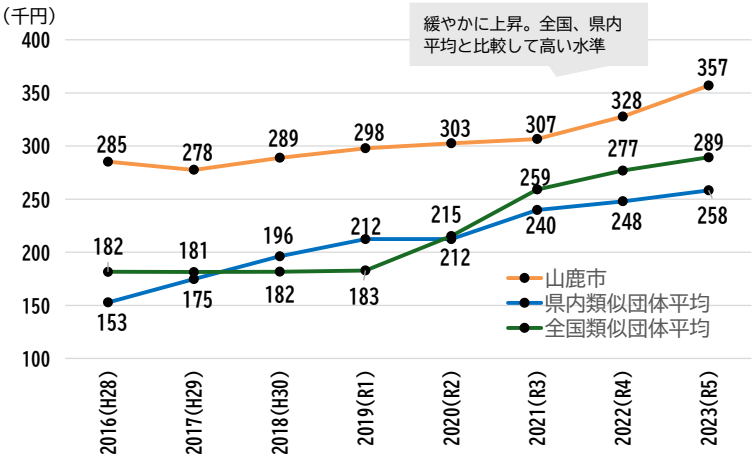
■市民 1 人あたりの借金（市債） （千円）



（出典：「山鹿市財政状況」、総務省「類似団体比較カード」）

※本市の類型は 2016～2019 年がⅡ-1、2020 年～2023 年はⅠ-1。類型の変更に伴い、全国類似団体の平均値が変化しています

■市民 1 人あたりの貯金（基金） （千円）



（出典：「山鹿市財政状況」、総務省「類似団体比較カード」）

※本市の類型は 2016～2019 年がⅡ-1、2020 年～2023 年はⅠ-1。類型の変更に伴い、全国類似団体の平均値が変化しています

<市の財政状況のまとめ>

- 市民 1 人あたりの借金（市債）は緩やかに減少し、市民 1 人あたりの貯金（基金）額は上昇している。財政改革の効果が出ていると考えられるが、今後は人口減少等の影響もあり、さらなる取組が必要になります。
- 高度経済成長期にあたる昭和 40 年～60 年代にかけて多くの公共施設、土木インフラを集中的に整備しましたが、年月とともに老朽化が進行し、これらの公共施設が今後一斉に更新の時期を迎えることとなります。



- ◆人口減少、高齢化が続く中で、計画的な行政運営や、自主財源の確保による財政健全化が必要。
- ◆公共施設の統廃合、複合化などを行うことによる、財政負担の平準化が必要。
- ◆社会情勢の変化や住民ニーズの多様化に対応するため、組織の構成や業務分担を見直し、より効果的・効率的な行政運営を実現するための取組が必要。

写真&イラスト

▶市民ニーズについて

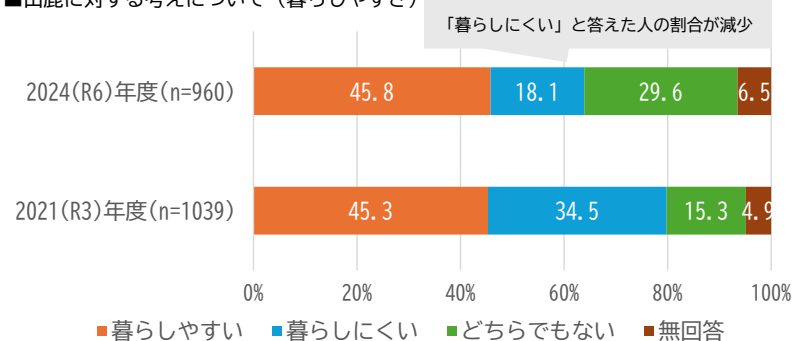
定住意向や、施策に対する満足度、重要度など、市民のニーズから見える現状の一面として整理します。

（出典：「令和3年度総合戦略に関する市民アンケート調査」「令和6年度総合戦略に関する市民アンケート調査」）

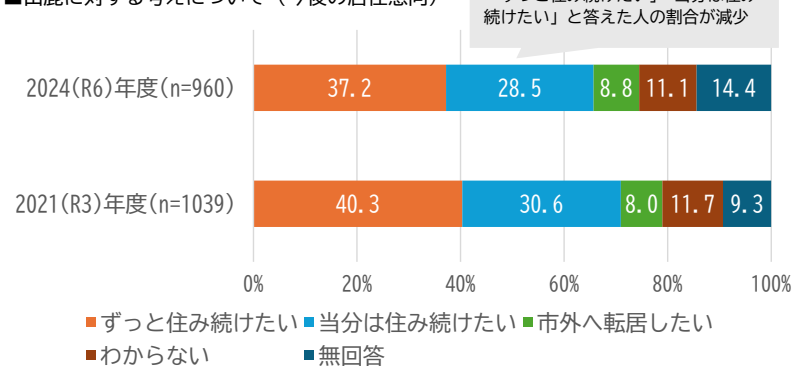
【市民アンケート調査結果概要】

	2024（令和6）年度	2021（令和3）年度
調査対象者	本市在住の市民から無作為に抽出した 3000 人	
配布数	3000 件	
有効回答数	960 件	1039 件
有効回答率	32.0%	34.6%

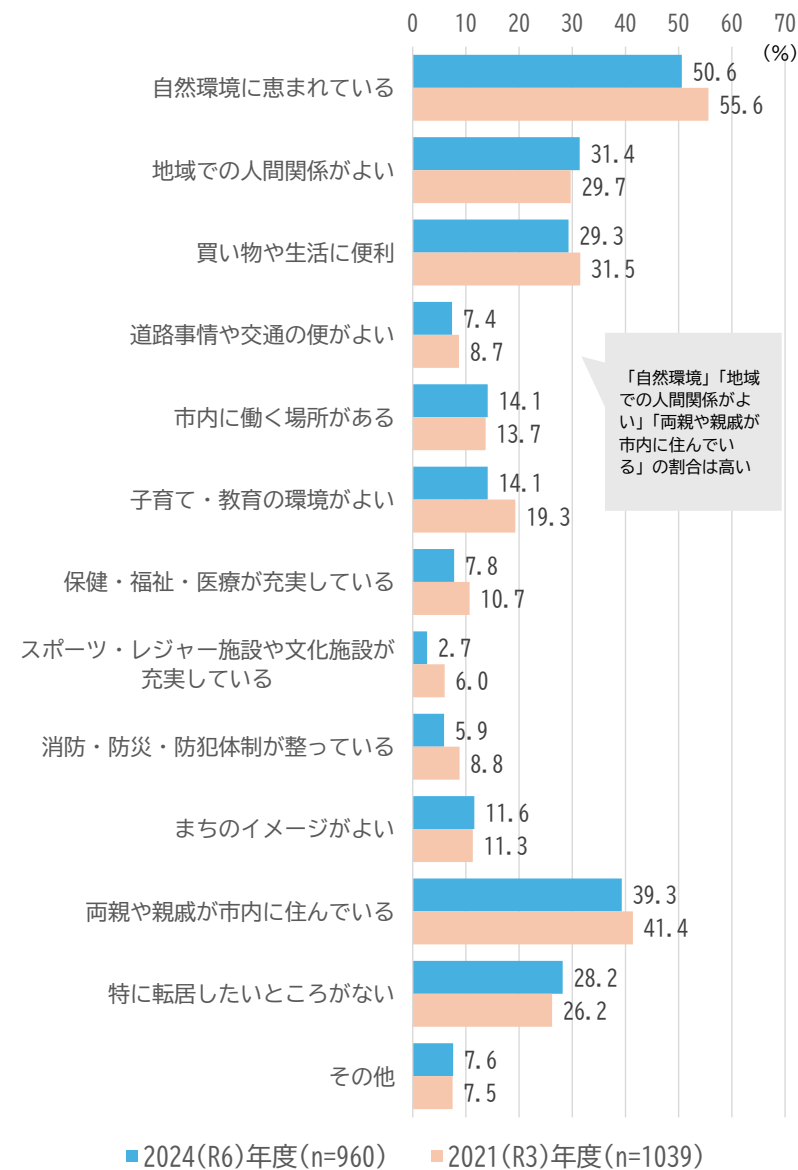
■山鹿に対する考えについて（暮らしやすさ）



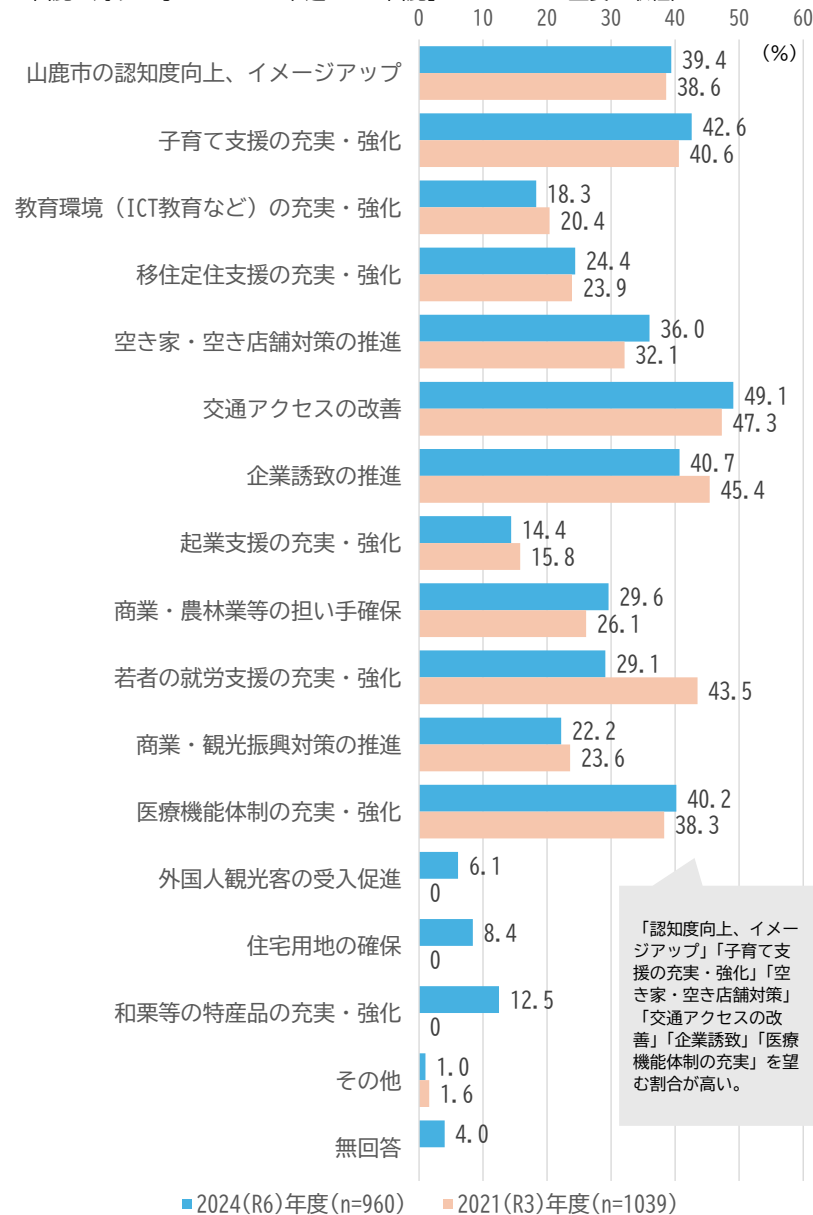
■山鹿に対する考えについて（今後の居住意向）



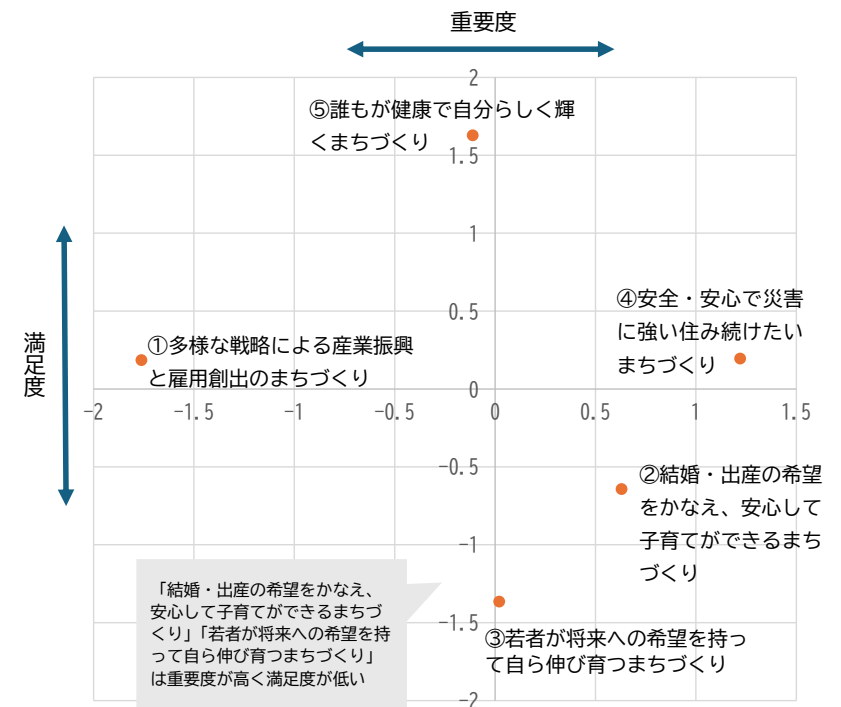
■山鹿に対する考えについて（住み続けたい理由）



■山鹿に対する考えについて（「選ばれる山鹿」になるための重要な取組）



■第2次山鹿市総合計画における満足度及び重要度の相関図



【市民意識調査から見た現状・第2次山鹿市総合計画の総括】

- 満足度が高いのは「誰もが健康で自分らしく輝くまちづくり」「安全・安心で災害に強い住み続けたいまちづくり」「多様な戦略による産業振興と雇用創出のまちづくり」の順。
- 満足度が低いのは「結婚・出産の希望をかなえ、安心して子育てができるまちづくり」「若者が将来への希望を持って自ら伸び育つまちづくり」。
- 特に重要度が高いのは「安全・安心で災害に強い住み続けたいまちづくり」「結婚・出産の希望をかなえ、安心して子育てができるまちづくり」。
- 結婚や出産、子育てなどへの支援と若者への支援策についての改善とさらなる充実が求められている。

▶市民ワークショップの概要

本市のまちづくりについて、市民の皆さんの意見を伺い、未来の本市の姿を共に描くためのワークショップを開催しました。

【開催概要】

開催日時 2025(令和7)年6月27日(金) 14時～、19時～

場 所 山鹿市民交流センター会議室

参加者数 27名

【市民の皆さんの意見】

★山鹿市のいいところ

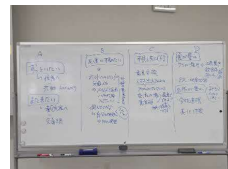
- ・八千代座や街並み、資源や歴史など文化がある
- ・農産物や食べ物、特に和栗、4つのお酒が揃っている
- ・温泉がある
- ・挨拶・親切・いい意味でおせっかい、コミュニティのつながりなど人がいい
- ・自然が豊か

★山鹿市の課題

- ・公共交通の便(バスが少ない、鉄道がない)
- ・空き地、空き家の多さ
- ・働く場所がない
- ・子育て、教育支援が少ない
- ・市民が集まって意見を出す場所がない
- ・文化に親しむ機会や大切にする雰囲気がない
- ・旧市町意識
- ・祭りの維持(山鹿灯籠を含む)
- ・公共の建物の老朽化

★こんな山鹿にしていきたい！

- ・暮らしやすさ、移動しやすさ、安心して暮らせることがあたりまえの「ずっといたい山鹿」
- ・若い人が戻ってきて夢をかなえられる「やりたいことができる、ワクワクする山鹿」
- ・いろいろな人の意見が反映される「市民と共につくる山鹿」



▶高校生ワークショップの概要

本市のまちづくりについて、高校生の皆さんの意見を伺い、未来の本市の姿を共に描くためのワークショップを開催しました。

【開催概要】

開催日時 2025(令和7)年7月18日(金) 15時30分～

場 所 山鹿市役所 401 会議室

参加者数 26名 (鹿本高校、鹿本商工高校、鹿本農業高校、城北高校)

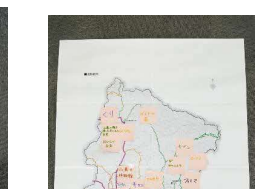
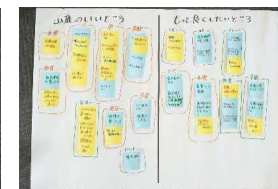
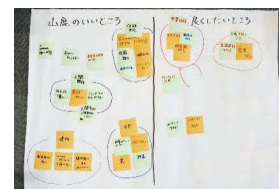
【高校生の皆さんの意見】

★山鹿市のいいところ

- ・温泉がある(さくら湯)
- ・やさしい人がたくさんいる
- ・自然がいっぱい
- ・農産物おいしい
- ・未成年の病院代がタダ
- ・風景がいい
- ・灯籠踊りがある

★山鹿市の変わってほしいところ

- ・お店が少ない
- ・服店・映画館・スタバを作る
- ・街の明かりを増やす
- ・娯楽が少ない
- ・使われていない店を活用したい
- ・小さな公園にもう少し遊具が欲しい
- ・バスの本数が少ない
- ・電車で通学できるようにしたい
- ・さくら湯と何かをコラボしたらいい
- ・体験できるイベントが増えて欲しい
- ・取組があるのに知られていない



電車でぐると
回れる山鹿！

2-2 まちづくりの課題

市の現状から見えてきた課題を整理しました。これらの課題は相互に関連しており、どれか一つを解決すれば良いというものではありません。総合的な視点での取組が必要です。

【人口減少と少子高齢化】

●労働力不足

若年層の市外流出や高齢化の進行により、産業を支える働き手が減少し、経済活動の維持が難しくなっています。

●地域コミュニティの担い手不足

地域の行事や伝統文化の継承、防災活動など、コミュニティ活動を支える人材が減り、地域の活力が失われつつあります。

●空き家問題

景観の悪化、防犯・防災上のリスク、資産価値の低下といった問題を引き起こす要因になっています。

【産業の活性化と雇用の創出】

●農業の担い手不足

農業が盛んな地域である一方、後継者不足が深刻化しています。スマート農業¹⁵の導入や新規就農者の確保が課題となっています。

●観光振興

豊かな自然や温泉、歴史的建造物といった観光資源が多く、活用方法を工夫することでこれまで以上に観光客や宿泊客を増やせる可能性があります。また、地域内での消費を促すなどの取組も求められます。

●魅力的な雇用の創出

定住につながるような、市内での多様な働き口を創出することが重要です。

【交通・生活インフラの維持】

●公共交通

人口密度の低い地域では、採算性の問題から公共交通の維持が難しくなります。自家用車を持たない高齢者や学生の移動手段をどう確保するかが課題です。

●医療・福祉

高齢化が進む中で、地域全体で医療や介護サービスをいかに充実させるかが求められます。

相
互
に
関
連

写真&イラスト

¹⁵ ドローンやロボットトラクターなどの技術やAI、情報通信技術を活用し、農作業の効率化や生産性向上、コスト削減、人材不足の解消などを目指す新しい農業のこと

3 基本構想

3-1 未来ビジョン

ずっと 住みたい 健幸都市 やまが

「未来ビジョン」には、未来に起こるさまざまな変化に柔軟に対応しながら、私たち自身が「こんなまちにしたい」という強い思いを持って行動し、理想の未来を築いていこうという願いが込められています。「未来ビジョン」は、いわば「未来へ進むための地図」です。本計画における未来ビジョンは、「ずっと 住みたい 健幸都市 やまが」とします。

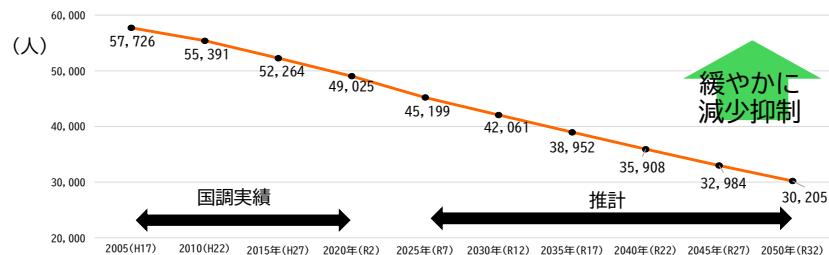
これは、市民にとっては「住み続けたい」まちであり、訪れる人にとっては「住んでみたい」まちであることを表しています。そして、市民一人ひとりが、心も体も健やかで、幸せに暮らせる山鹿市を目指す思いを込めています。

◇重要目標達成指標（KGI）¹⁶

未来ビジョン実現の目安として、次のとおりまちづくりの指標を設定します。

本計画に基づく取組の推進により、出生率の向上や若年層の転出超過を改善することで、できるかぎり人口減少を緩やかにしていくとともに、人口が減少したとしても誰もが住み続けたいと思うまちづくりに取り組みます。

指標1 人口ビジョン



参照：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」2023(R5)) 年推計

指標2 山鹿市に住み続けたいと思う市民の割合

現 状	前期目標	後期目標
2024(R6)年	2029(R11)年	2033(R15)年
65.7%	現状 ↑	2029(R11)年より ↑

【数値根拠】「令和6年度総合戦略等に関する市民アンケート」における「今後も住み続けたいと思っている人」と「当分は住み続けたい人」の割合が、65.7%であり、この数値を基準とした。

未来ビジョンをイメージしたイラスト

¹⁶ 目標の達成度合いを測るために、ゴールを数値化したもの

3-2 まちづくりのコンセプト

「ずっと 住みたい 健康都市 やまが」の実現に向けて、次の5つの視点に対し、まちづくりのコンセプトを設定し、各施策を進めていきます。

1 彩り豊かな「ひと」を育むまち

市民一人ひとりが自分らしく輝き、互いに尊重し合いながら共生できる環境づくりを進めます。

- 施策1 人権・平和・多文化共生
- 施策2 男女共同参画・女性活躍
- 施策3 就学前教育・学校教育
- 施策4 生涯学習・スポーツ・青少年健全育成
- 施策5 歴史・文化

写真&イラスト

2 地域資源を活かし、「しごと」を生み出し、「賑わい」を創出するまち

豊かな地域資源を最大限に活かし、新たな「しごと」と活気に満ちた「賑わい」を創出することで、持続可能な地域社会の実現を目指します。また、商工業、農林畜水産業、雇用、観光の各分野が連携し、相互に好循環を生み出す施策を強力に推進していきます。

- 施策6 商工業
- 施策7 農林畜水産業
- 施策8 雇用
- 施策9 観光

写真&イラスト

3 快適な「暮らし」を続けられるまち

安全で便利な生活インフラや交通網を整え、誰もが快適に暮らし続けられるまちづくりを進めます。

- 施策10 道路・公共交通・住まい
- 施策11 上下水道・生活環境
- 施策12 環境保全・脱炭素¹⁷・エネルギー
- 施策13 防災・消防
- 施策14 防犯交通・消費者トラブル

写真&イラスト

¹⁷ 二酸化炭素（CO₂）の排出量を実質的にゼロに近づける取組のこと

4 支え合い健やかに過ごせる「健幸」なまち

市民一人ひとりが心身ともに健康で、幸福を感じながら暮らせるよう、地域全体で支え合いができるまちづくりを進めます。

- 施策15 子育て支援
- 施策16 医療・健康
- 施策17 高齢者福祉
- 施策18 地域福祉・困窮者対策
- 施策19 障害福祉
- 施策20 協働・コミュニティ

写真&イラスト

5 工夫しながら、わかりやすく、あたたかい「サービス」を届けるまち

限られた資源（予算、人材、時間など）を効果的・効率的に活用し、住民のニーズや社会の変化に対応しながら、長期的な視点を持って行政を進め、また、住民が求めるニーズに合致し、かつ期待を超えるような、価値のあるサービスを提供できる体制づくりを目指します。

- 施策21 情報政策（DX）
- 施策22 広報啓発活動
- 施策23 行財政運営

写真&イラスト

4 総合計画を支える個別計画

最上位計画である総合計画を補完するため、各分野を所管する部局等が中心となって個別計画を策定し、総合計画を支えています。

NO.	担当課	個別計画等名称	まちづくりのコンセプト				
			彩り豊かな「ひと」を育むまち	地域資源を活かし、「しごと」を生み出し、賑わいを創出するまち	快適な「暮らし」を続けられるまち	支え合い健やかに過ごせる「健康」なまち	工夫しながら、わかりやすく、あたにかいサービスを提供するまち
1	総務課	山鹿市定員管理指標				●	●
2	総務課	山鹿市特定事業主行動計画				●	●
3	総務課	山鹿市人材育成基本方針				●	●
4	総務課	山鹿市障害者活躍推進計画（第2期）				●	●
5	政策調整課	山鹿市総合戦略	●	●	●	●	●
6	政策調整課	山鹿市過疎地域持続的発展計画	●	●	●	●	●
7	情報政策課	山鹿市デジタル化基本方針			●	●	●
8	防災監理課	山鹿市地域防災計画			●	●	
9	防災監理課	第3次山鹿市交通安全計画			●	●	
10	財務課	山鹿市財政計画					●
11	財務課	山鹿市公共施設等総合管理計画			●	●	●
12	財務課	公共施設個別施設計画			●	●	●
13	人権啓発課	第3次山鹿市男女共同参画計画	●			●	
14	人権啓発課	第3次山鹿市人権教育・啓発基本計画	●			●	
15	地域生活課	山鹿市地域公共交通計画			●	●	
16	環境課	山鹿市環境基本計画			●	●	
17	環境課	第3次山鹿市一般廃棄物処理基本計画			●	●	
18	環境課	第10期山鹿市分別収集計画			●	●	
19	環境課	山鹿市地球温暖化対策実行計画			●	●	
20	福祉課	第3期山鹿市地域福祉計画・山鹿市成年後見制度適正利用促進計画				●	
21	福祉課	第4期障害者計画				●	
22	福祉課	第7期障害福祉計画				●	
23	福祉課	第3期障害児福祉計画				●	
24	長寿支援課	第9期山鹿市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画				●	
25	健康増進課	第2期山鹿市いのちを支える自殺対策計画				●	

NO.	担当課	個別計画等名称	まちづくりのコンセプト				
			彩り豊かな「ひと」を育むまち	地域資源を活かし、「しごと」を生み出し、賑わいを創出するまち	快適な「暮らし」を続けられるまち	支え合い健やかに過ごせる「健康」なまち	工夫しながら、わかりやすく、あたにかいサービスを提供するまち
26	健康増進課	第4次山鹿市健康増進計画				●	
27	健康増進課	第3次山鹿市食育推進計画				●	
28	国保年金課	山鹿市国民健康保険第3期保健事業実施計画（データヘルス計画）・第4期特定健康診査等実施計画				●	
29	子ども課	山鹿市こども計画				●	
30	農業振興課	山鹿農業振興地域整備計画		●		●	
31	林業振興課	山鹿市森林整備計画		●		●	
32	建設課	山鹿市国土強靱化計画			●	●	
33	建設課	橋梁長寿命化計画			●	●	
34	建設課	舗装個別施設計画			●	●	
35	都市整備課	山鹿市都市計画マスタープラン			●	●	
36	都市整備課	山鹿市住宅マスタープラン（住生活基本計画）			●	●	
37	都市整備課	山鹿市建築物耐震改修促進計画			●	●	
38	都市整備課	市営住宅長寿命化計画			●	●	
39	都市整備課	公園施設長寿命化計画			●	●	
40	都市整備課	山鹿市空家等対策計画			●	●	
41	都市整備課	山鹿市景観計画			●	●	
42	下水道課	山鹿市下水道事業経営戦略			●	●	●
43	下水道課	公共下水道ストックマネジメント計画			●	●	●
44	下水道課	農業集落排水最適整備構想			●	●	●
45	水道課	山鹿市水道ビジョン			●	●	●
46	教育総務課	第3次山鹿市教育大綱	●			●	
47	教育総務課	第4次山鹿市教育振興基本計画	●			●	
48	教育総務課	学校施設長寿命化計画	●			●	
49	生涯学習・スポーツ課	山鹿市スポーツ推進計画	●			●	
50	生涯学習・スポーツ課	第4次山鹿市読書活動推進計画	●			●	
51	文化課	重要文化財 八千代座保存活用計画	●	●		●	
52	文化課	山鹿市文化芸術推進基本計画	●	●		●	
53	消防総務課	山鹿市消防本部定員管理指標			●		

5 構想の推進に向けて

本計画に掲げる構想を着実に推進していくため、各施策に紐づく個別計画に基づいた成果検証と評価により PDCA サイクル¹⁸を用いて計画の進行管理を行います。

また、第三者による評価の実施など客観性の確保に努め、計画の進捗を定期的に確認し、社会経済情勢の変化や新たな課題にも柔軟に対応できる仕組みを構築します。



¹⁸ Plan (計画)、Do (実行)、Check (評価)、Action (改善) の4つのステップを繰り返すことで、業務やプロジェクトを継続的に改善していくこと